

● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者	出 版
議 会		
昭和天皇実録 第十七	宮内庁 (編)	東京書籍
ま ち づ くり		
地産地消と学校給食 有機農業と食育のまちづくり	安井 孝	コモンズ
そ の 他		
災害に立ち向かう人づくり 減災社会構築と被災地復興の礎	宮崎 益輝(編)・富永 良喜(編)・兵庫 県大学大学院減災復興政策研究科	ミネルヴァ書房
子どもの貧困と食格差	阿部 彩・村山 伸子 可知 悠子・鷹 咲子	大月書店
生活支援の地域公共交通 路線バス・コミュニティバス・STサービス・デマンド型交通	秋山 哲男・吉田 樹 猪井 博登・竹内 龍介	学芸出版社
地方消滅 東京一極集中が招く人口急減	増田 寛也	中央公論新社
空き家問題解決のための政策法務 法施行後の現状と対策	北村 喜宣	第一法規
ルポ 児童相談所	大久保 真紀	朝日新聞出版
よくわかるギャンブル障害 本人のせいにはしない回復・支援	蒲生 裕司	星和書店
広報紙面デザイン技法講座 ビジュアル・エディティングへの基礎	佐久間 智之	学陽書房
生活困窮者支援で社会を変える	五石 敬路(編)・岩間 伸之(編) 西岡 正次(編)・有田 朗(編)	法律文化社
パッと伝わる！公務員のデザイン術	佐久間 智之	学陽書房



“めでたいでんしゃ”で加太の魅力探し！



今回は、南海加太線の「めでたいでんしゃ」に注目しました。

南海加太線は、明治45年に加太軽便鉄道として加太ー北島間が開通したことが始まりです。昭和17年には南海加太線と呼ばれ、2年後、東松江から紀ノ川間に貨物線がつけられました。昭和25年には旅客営業を始めたことで、今現在の南海加太線ができました。昭和41年には北島支線が廃止され、加太方面の電車はこの路線のみとなったのです。

時代とともに人口減少と車社会が進み、乗客数が減るなか、電車を利用し、加太への観光客をもっと増やそうと始まったのが「めでたいでんしゃ」です。「めでたいでんしゃ」とはピンク色と水色の観光列車です。平成28年4月に加太の名産品“鯛”をモチーフにしたピンク色の列車が運行を始め、翌29年10月には、海の生き物や波をイメージした水色の列車が誕生しました。今年の4月には、ピンク色は「さち」、水色は「かい」の愛称でより親しまれるようになり、県外からもこの電車に乗りたくて訪れる観光客が増えているそうです。

その電車で行く終着駅の加太には、淡嶋神社・加太春日神社といった歴史に触れられるスポットや、海で泳いだり、バーベキューをしたり、磯遊びもできる加太海水浴場もあります。加太には他にも魅力がたくさんあります。夏休みも終盤になりましたが、ぜひ「めでたいでんしゃ」に乗って、加太の魅力を再発見してほしいと思います。

※参考資料：全国鉄道事情大研究、和歌山の本

明治45年	加太軽便鉄道として、加太ー北島間が開通
大正3年	北島（現在の河西橋付近）ー和歌山口（和歌山市駅北側の検車区付近）が開通
昭和6年	加太電気鉄道となる
昭和17年	南海に合併され南海加太線となり、和歌山口駅は和歌山市駅に統合される
昭和19年	東松江ー本線紀ノ川間に住友金属（現在新日鉄住金）の長大貨物列車を通すため新線・貨物線ができる
昭和25年	貨物線が旅客営業を開始し南海加太線となり、元の南海加太線は北島支線となる
昭和30年	水書で紀ノ川鉄橋が痛み、北島支線の一部休止
昭和41年	北島支線廃止